

いせきワールド in 前橋 2010

平成21年度 前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ



あたごやま
愛宕山古墳の石室
(7世紀前半)



ほうとうざん
宝塔山古墳の石室
(7世紀後半)



じゃけつざん
蛇穴山古墳の石室
(7世紀末)



総社町屋敷南遺跡

蛇穴山古墳の葺石(ふきいし)

蛇穴山(じゃけつざん)古墳は7世紀後半に造られた豪族(ごうぞく)のお墓です。蛇穴山古墳本体の大きさは一辺43mですが、二重に囲われた堀まで含めると一辺82mの正方形の形になります。写真は内側の堀の北西角に貼られた石です。多くの石が平らに積み上げられている様子が分かります。周堀の一周、およそ330mに同じように石が貼り付けられていると考えられます。古墳にはたくさんの石が使われました。

上の三枚の写真は総社古墳群の中にある愛宕山・宝塔山・蛇穴山古墳のそれぞれの石室です。愛宕山と宝塔山の石室には家の形をした棺(ひつぎ)、家形石棺(いえがたせっかん)がおさめられています。家形石棺は有力な豪族(ごうぞく)だけしかもつことができませんでした。宝塔山と蛇穴山の石室はきれいに形の整えられた石が隙間なくしっかりと設置されています。これを截石切組石室(きりいしきりくみせきしつ)とよび、とても高度な加工技術が必要とされました。これらの大きな古墳をつくったのはおそらく、「上毛野氏(かみつけぬし)」とよばれた豪族です。中央の大和朝廷(やまとちやうてい)との結びつきが強く、当時の群馬県内の豪族たちのリーダーでした。



平成21年度の発掘調査

今年度も前橋市のたくさんの場所で発掘調査が行われました。発掘調査では、住居の生活の跡や、おわん・かめ・つぼなどの道具がたくさん見つかりました。見つかったすると昔の人々がどのようにして生活していたかが分かります。



① 回廊南東角

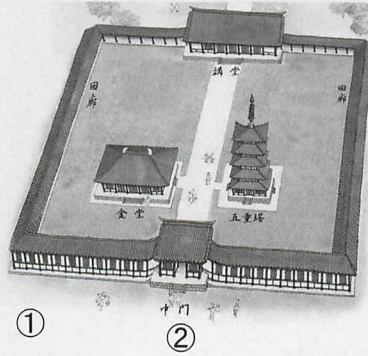
☆ここは西の回廊と南の回廊が交差する廊下の曲がり角です。版築とよばれるとてもしっかりとした床が東西方向にのびている様子が確認できました。



② 推定中門

☆見つかった版築の広さが回廊の広さよりはるかに広いので、この場所はお寺の入り口である中門の一部であると考えられます。

↓山王廃寺伽藍配置想定図



① ②

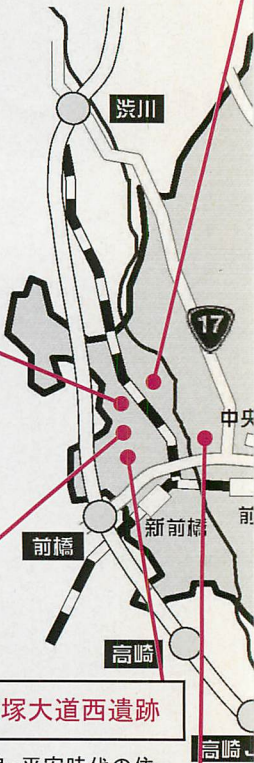
山王廃寺跡

一言プラス！

☆これまでに山王廃寺からは「放光寺」の文字が書かれた瓦や「放光」とスタンプされた瓦が多数発見されました。このことから、昔の記録(山上碑・上野国交替実録帳)に出てくる「放光寺」と同一の寺院と考えられています。

総社町屋敷南遺跡

☆公民館建設予定地を発掘調査しました。宝塔山・蛇穴山古墳の周堀と古墳時代の住居が見つかりました。



用語解説

【回廊(かいろう)】 塔(とう)や金堂(こんどう)、講堂(こうどう)などを囲む屋根付の廊下(ろうか)。

【版築(はんちく)】 土留めの堰板(せきいた)の間に薄く土を盛り、棒で突き固めて層状に盛り上げる工法。中国・朝鮮半島を経由して日本にもたらされたと言われている。



蒼海(26)

☆とても深い溝が見つかりました。大人を縦に3人分積み重ねるよりも深いです。横幅も広く両側から急激に落ち込んでいるので、もし落ちたら自分ではあがってこれません。蒼海城の堀の可能性がありますが、この堀がこの辺りをぐるりと取り囲んでいたようです。



☆鉄で作られた紡錘車です。これは繊維(せんい)を塊から糸をつむぐ道具です。繊維の塊を軸に巻きつけ、コマのように回転させながら繊維をねじって一本の糸にします。紡錘車は土・石・骨角・木などでも作られています。

元総社蒼海遺跡群(26)～(31)

☆元総社地区では、前橋市が区画整理(新しい道路などをつくり、みんなの生活を便利にすること)に取り組んでいます。今年度も区画整理が行われる前に元総社地区の発掘調査を行いました。古墳～奈良、平安時代にかけての住居跡がたくさん見つかりました。

総社稲荷塚大道西遺跡

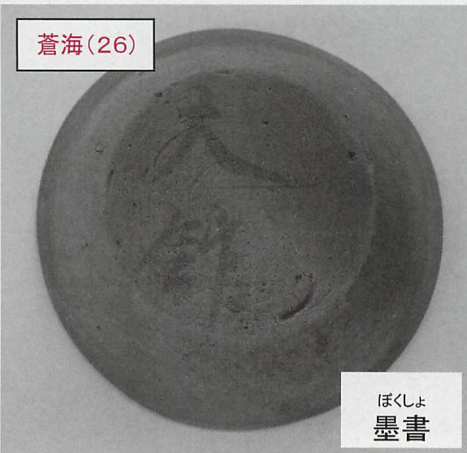
☆古墳・奈良・平安時代の住居が見つかりました。

前橋城(南曲輪地点)

☆江戸時代の前橋城の堀が見つかりました。



元総社地区には、奈良・平安時代には国府(今でいう県庁)が、室町時代には蒼海城がありました。当時の政治の中心地でした。



蒼海(26)

ほくしょ 墨書

☆おわんの底に文字が書かれているのが分かりますか？

このおわんは国府で働いていた人が使っていたおわんだと考えられます。自分のものだと分かるように印を付けておいたのです。



南部城

調査

土居・土坑・溝など
土器をよく観察



上細井北遺跡群No.2



☆住居跡から見つかった大きさ5~8cmの小型土器(古墳時代)

堀越甲真木遺跡群No.3

☆縄文時代の落とし穴が見つかりました。

女屋宮田遺跡

☆古墳~奈良時代の住居が見つかりました。

山王若宮IV遺跡

☆6世紀後半につくられたと考えられる前方後円墳です。近くの金冠塚古墳(きんかんづかこふん)をはじめ、この地域にはたくさんの古墳があります。これから調査を進めていけば、もっと古墳が見つかるかもしれません。

房丸桜町遺跡

☆古墳・平安時代の住居が見つかりました。

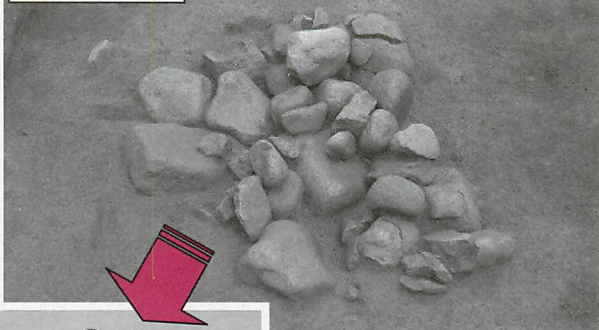
六供遺跡群No.5

☆古墳時代の住居が見つかりました。

南部拠点地区遺跡群No.3~5

☆平安時代の水田跡が見つかりました。

上細井北No.2



☆赤城山の南斜面にはたくさんの縄文時代の遺跡があります。そこからはたくさんの縄文土器が出土しています。古い土器ではおよそ6000年前の土器が見つっています。



山王若宮IV遺跡

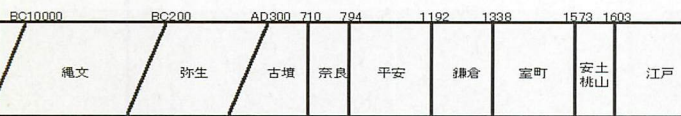
平成21年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	主な時代
おなみやや 女屋宮田遺跡	女屋町	古墳、奈良・平安時代
かみほそいきた 上細井北遺跡群No.2	上細井町	古墳、奈良・平安時代
さんのうはいし 山王麿寺跡	総社町総社	奈良・平安時代
さんのうわかみや 山王若宮IV遺跡	山王町	古墳時代
そうじゃいなりづかおみちにし 総社稲荷塚大道西遺跡	総社町総社	古墳、奈良・平安時代
そうじゃまちやしきみなみ 総社町屋敷南遺跡	総社町総社	古墳、奈良・平安時代
なんぶきよてんちく 南部拠点地区遺跡群No.3~5	鶴光路町、下阿内町	古墳、平安、中・近世
ぼうまるさくらまち 房丸桜町遺跡	房丸町	古墳、平安時代
ほりこしこうまき 堀越甲真木遺跡群No.3	堀越町	縄文時代
まえはしじょう(みなみくるわてん) 前橋城(南曲輪地点)	大手町	平安、近世~近代
もとそうじゃおうみ 元総社蒼海遺跡群(26)~(31)	元総社町	古墳、奈良、平安~中世
ろつく 六供遺跡群No.5	六供町	古墳、中・近世

南部拠点地区遺跡群No.3~5



☆As-B軽石(平安時代に浅間山の噴火でふりつもった小さな石)でうもれた水田跡が見つかりました。このあたりでは大昔から稲作が行われていたのですね。当時の条里制(じょうりせい)という制度できれいに水田が区画(くかく)されている様子が分かりました。



山王廃寺跡

長さ6m

長さ6m



調査区全景

用語解説

【布掘り(ぬのぼり)】 建物の基礎(きそ)をつくるときに布のように細長く地面を掘って、それから柱穴をつくる工法。

【1間(いっけん)】 昔の長さの単位。1間は約1.8mとなる。1間は6尺で、1尺は約30cmとなる。

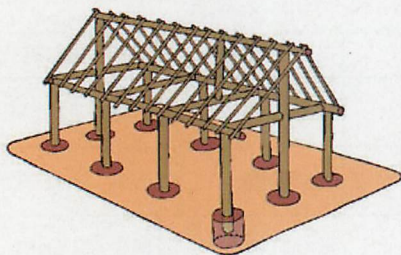


☆柱をしっかりと立てるために柱穴の下に石が置かれています。今回の調査では石の代わりに瓦を置いた柱穴も見つかりました。

山王廃寺の北東の調査区で見つかった建物の柱穴です。この穴に柱を立てて、建物を組み立てました。広さは3間×3間(およそ6m×6m)で、畳18枚分です。

この穴は「布掘り(ぬのぼり)」という大変めずらしい工法でつくられています。また、柱がたくさん使われる総柱の建物であることから、食糧を保存する倉庫と言えます。山王廃寺よりも古い時期のものであったと考えられています。

一言プラス!



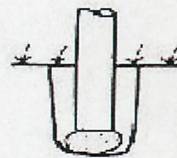
☆2間×3間の掘立柱建物の想像図

ほったてばしらたてもの 《掘立柱建物について》

☆掘立柱建物の歴史は縄文時代から始まります。人々は竪穴式住居で生活していましたが、掘立柱建物は集落の中心的な建物としてつくられ、祭壇(さいだん)や見張り台のような使われ方をしていたと考えられています。

弥生時代には見張り台の役割に加え、食糧をしまっておく倉庫としての役割が加わりました。ネズミ返しがついている高床式倉庫の図は見たことがありますよね。左の図は弥生時代の掘立柱建物の想像図です。

古墳時代に入ると、掘立柱建物は豪族の力を示すものとして積極的に利用されました。いわゆる豪族居館(ごうぞくきょかん)です。ここでは豪族が生活するだけでなく、政治を行う役所としての使われ方もしました。古墳から発見された埴輪(はにわ)には建物の形をした家形埴輪(いえがたはにわ)があり、それを調べると当時の建物の様子がよく分かります。



☆柱穴の断面図。石の上に柱を乗せ、その周りを土でしっかりと固めました。

国史跡「山王廃寺跡」の調査について

山王廃寺(さんのうはいじ)は前橋市総社町に所在し、7世紀後半に建てられた、古代東国では最古級の寺院跡です。平成20年3月には国史跡の追加指定を受け、史跡名も「山王塔址」から「山王廃寺跡」に変更されました。

前橋市教育委員会では、平成18年度から5カ年計画で山王廃寺の発掘調査を行っています。この調査では、寺院の諸施設やその周りの様子について、さらに詳しく調べることを目的としています。

今年度は第4年次の調査として、南回廊・中門と周辺地域の調査を行いました。

●問い合わせ●

平成22年3月31日発行 前橋市教育委員会文化財保護課
前橋市三俣町二丁目10番地2 電話027-231-9875・9531 FAX027-231-9862
<http://www.city.maebashi.gunma.jp/>
Eメール bunkazai@city.maebashi.gunma.jp

